

## 第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

奈良教育大学大学院 修士課程  
伝統文化教育・国際理解教育専攻  
2年 井上寿美

1. 単元名 詩歌を表現してみよう

2. 単元の目標

知識・技能

・漢詩や万葉歌を学ぶことで、日本の伝統文化に対する理解を深めることができる。

思考・判断・表現

・詩吟や和歌を歌うことで、表現力やコミュニケーション能力を高めることができる。

主体的に学習に取り組む態度

・詩吟や和歌を鑑賞することで、他者への理解や共感力を高めることができる。

3. 単元について

(1) 教材観

中国の漢詩や漢文の影響を受けて、日本独自に作られたのが和歌である。万葉集の和歌は漢字で書かれているが、その後万葉仮名が成立する。また、この時代にはすでに国際交流をしていたこと、遣隋使や遣唐使の人々が本当に大変な思いをして日本に文化を持ち帰ってきた。今の日本があるのは、この様な人々と受け入れてくれた国のお陰であること、そして、現在も色々な国とお互いに支え合っていると感じて欲しい。本教材では、これらのことに気づくことができるものである。

伝統文化が豊富な奈良であるが、子どもたちがそれに触れる機会は少ない。日本最古の万葉集は奈良で作られた。今回、万葉集に収められている山上憶良の和歌を通して作者の思いやその時代背景について学び、子どもたち自身の存在が本当に尊いものである事を知って欲しいと考えた。山上憶良は他の貴族と違って、庶民の様子を詠う和歌を作っている珍しい歌人である。子らを思う歌から貴族であっても庶民でも、そして、釈尊であっても子どもへの思いは同じという考えを持っていたと推察できる。山上憶良の人柄に迫れる和歌に親しむことを中心にして、子どもたち自身が尊い存在である事を強く実感できるようにしたい。

そして、短い言葉に深い思いが籠められた和歌を、子どもたちがそれぞれの思いを込めて歌い鑑賞することで、互いに受け入れ尊重する気持ちを育めるようにした。この活動を通して思いを表現することへの興味や文化への興味など、子どもたちの心の糧になるきっかけ作りとしたい。

万葉集の和歌を歌う前に、詩吟を導入したい。私にとって詩吟を通して漢詩の内容を知ることが心の支えとなってきたからである。詩吟の教材に新島襄が作った「寒梅」を取り上げる。この詩の内容は庭先の1本の梅の木が冬の試練に耐え、他の花と競わず、又、自分の力を誇示しようともせず、どの花よりも早く花を咲かすと言う内容である。これは人間にも例えられると思われる。他人と比

べるのではなく、自分自身が少しずつ頑張っていくことが大事であると伝えたいので選んだ。漢詩も万葉集も先人たちが生活の中で詩を作り、その時代の方法で声に出て歌われてきたものであるという共通点があるからこそその詩吟の導入である。文字だけでは難しいと思われがちな古典を歌うことを通して親しみ、視野を広げて欲しいと考える。そして、最終的には自分たちの地域に伝わる文化を調べて発表することで、文化の継承と発信につながる事を願う。

## (2) 児童観

現在当該児童が無い為省略

## (3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず、詩吟を導入するが、その前に万葉仮名クイズをして、漢字の色々な文字使いに触れることで、漢字に興味を持つようにする。例えば、万葉では「寒」をふゆ(冬)と読み、漢字の意味を考えて使っていた。この表意文字の使い方以外にも、違う文字使いについてもクイズで紹介して詩吟導入につなげる。以上の活動により、詩吟の教材として新島襄が作った「寒梅」の漢詩の白文である漢字 20 文字を黒板に書いて詩の中の内容を見て行く事に抵抗が無くなると考える。先にこちらから内容の意味を伝えるのではなく、黒板に書いた白文から子どもたちと共に内容を考えて行き、漢詩の内容を知り、現在の表現法としての詩吟で声を出して作者の思いを表現する体験をする。漢詩は元々漢字だけの文字であるが、日本語の書き下し文で吟じる詩吟により、漢詩に慣れやすくし内容理解を深める。

次に、詩吟より前に同じように生活の中で歌われていた詩歌の1つとして万葉歌を取り上げる。山上憶良の「子らを思う歌」を紹介する。はじめに、和歌の万葉仮名パズル(表音表記:5・7・5・7・5・7・5・7・7・)を作り万葉仮名と現在の漢字仮名使いとひらがなに合わせて行き、もとは漢字であったことや当時の雰囲気味わう。子どもたちと山上憶良がこの歌を作った時代背景や子どもの尊さを考え、当時のものではない今の和歌朗詠としてテキストで表現する。山上憶良がどのような思いであるかを感じ、自分たちの表現で歌う。

授業の最後に、発表会での万葉歌の表現の1つの選択肢として絵で表現を提案しているが、選択が難しい生徒向けに、「子らを思う歌」以外にイメージが湧きやすい歌も少し挙げておく。

発表会では、万葉歌に関する発表と「大切に受け継がれてきた物。これからも残して行きたいもの」と2つの発表をするが、次回万葉文化館に行くので、初めに万葉歌の中で好きなものを自分で見つける。自分で見つける事は大変なようにも思えるが、反対に見つける作業により、万葉歌に触れる機会が多くなり、興味が湧くと考える。次に見つけた歌については、万葉文化館の「万葉百科」で検索して正しい内容を確認する。そして、自分が選んだ歌の表現法を決める。

①自分でメロディーを付けて歌う②絵を描く③書道のどれかの方法で表現する。

もし、「子らを思う歌」を選ぶなら、④「子らを思う歌」をテキスト通りに詩吟で歌う⑤「子らを思う歌」を好きな歌として選び、①～③の表現法としてもよい。

さらに、万葉文化館に行き当時の人たちの生活の様子や歌などが展示されている資料館を見学

することで発表への意欲をもたせたい。そして、万葉文化館の先生から万葉歌についてのお話を聞き、時代背景や当時の人たちの想いに馳せることで、和歌への興味をより高めたい。その後、万葉文化館の図書館で調べ学習をして、発表会に備える。学校での調べ学習では、図書館の百科事典や万葉文化館のサイトである「万葉百科」を活用させたい。

次に、自分たちが住む奈良の文化の良さに気づけたことのふり返りをさせ、さらに自分たちの地域に伝わる大切に受け継がれてきたもので、これからも残して行きたいに物にはどんなものが有るのだろうかを班で考えさせ、話し合い、調べる。万葉歌（個人発表）との合同発表までつなげていくようにする。

初めは先人たちが継承してきた詩吟や万葉歌に親しむことから、次に自分事として「大切に受け継がれてきたもの、これからも残して行きたいもの」を考える。そして、これらがその土地に住む人にとっては当たり前であっても、貴重であり大切に守るべきであると気づく。最後に、この事を知らない多くの人に発信につなげる。

目標とする発表会では、それぞれの思いを込めて表現することを考える。

- ①発表時には自分が選んだ万葉歌を歌う、絵で描く、書道のどれかの方法で表現する。
- ②「自分たちの地域に伝わる大切に受け継がれてきたもので、これからも残して行きたいもの」は、班ごとに発表する。

以上2つについて保護者や地域の人たちに向けて発表する。自分たちで伝えたい内容や思いを大切にしたい。どのような形であれ自分の良さを出し認められるように、そして1人では意欲的に取り組めない子どもでも、仲間と支え合うことで目標に向かって頑張り、達成感を味わうことで今後の自信となるように願う。

#### (4) ESD との関連

##### ・本学習で働かせる ESD の視点(見方・考え方)

1. 多様性・公平性 「みんなちがってみんないい」の多様性を受け入れ、一人一人を大切にできる。
2. 相互性 山上憶良を通して、お互いを尊重し、相互理解する。
3. 連携・責任 発表に向けて、みんなで力を合わせて最後まで頑張る。

##### ・本学習で育てたい ESD の資質・能力

1. 多面的・総合的に考える能力 作者や背景を知り、考えることが表現に繋がる。
2. コミュニケーションを行う力 詩歌を詩吟や和歌で歌うことで相手に伝える。
3. 他者と協力する態度 共に調べ学習をし、発表会に向けて準備していく。

##### ・本学習で変容を促す ESD の価値観

1. 世代間の公正を意識できる 文化の継承を知る。
2. 人権・文化を尊重する 唐での多文化共生で、お互いの尊重があったことを知る。  
発表を通して、それぞれの人権・文化を尊重する。

### 3. 幸福感

知らなかった事を知る幸せと、みんなで発表まで協力して、達成感を得ることで幸せを感じる。

・達成が期待される SDGs

16 多様性と相互理解

4 先人たちが残した文化

11 歴史が残る町

### 4. 単元の評価規準

(ア) 知識・技能	(イ) 思考・判断・表現	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
<p>① 漢詩や万葉集の詩の内容理解と作者や作者の時代背景を理解し、説明している。</p> <p>② 詩吟と和歌による表現方法について理解している。</p>	<p>① 漢詩、和歌の作者の詩への思いを感じ取り、自分の考えを述べている。</p> <p>② 授業内で詩歌を歌うことで、自分の思いを表現している。</p> <p>③ 自分たちの地域に伝わる大切に受け継がれてきたもので、これからも残して行きたいものはどんなものが有るのだろうかと考え、話し合い、調べて万葉和歌との保護者や地域の方々に向けての合同発表までつなげていけるようにしている。更に、学校のホームページでの発信も考えている。</p> <p>*選んだものを更に深く調べる活動の方法として</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワークで文化に触れている。</li> <li>・インタビューによる聞き取りをしている。</li> </ul>	<p>① 漢詩、万葉集に興味を持ち、意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>② 万葉歌と自分たちの地域に伝わる大切に受け継がれてきたもので、これからも残していきたいものに興味を持ち、合同発表会に向けて意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>③ 発表を鑑賞して、他者の思いを理解し、尊重する気持ちを育もうとしている。</p>

5. 単元の指導計画(全17時間)

主な学習活動	○学習への支援	○評価 ・備考
<p>1. 万葉仮名クイズに挑戦しよう。</p> <p>2. 江戸時代の詩に親しみ表現してみよう。(2時間)</p> <p>・万葉クイズ、詩吟についてや作者についてのクイズをする。</p> <p>・漢詩だけで書かれた詩「寒梅」の内容や作者について知る。</p> <p>・書き下し文で読み、少しずつ吟じて練習する。最後にクラスで全員、グループでミニ発表をする。</p> <p>・発表後に感想を書いて、意見交換して振り返る。</p>	<p>・万葉仮名クイズをして、漢字の色々な文字使いに触れることで、漢字に興味を持つようにする。例えば、万葉では「寒」をふゆ(冬)と読み、漢字の意味を考えて使っていた。この表意文字の使い方以外にも、違う文字使いについてもクイズで紹介して詩吟導入につなげる。次の万葉歌とのつながりができるきっかけ作りとする。</p> <p>・詩吟が盛んな時代や、当時の人はどんな時に詩吟を学んでいたかの一例や作者についてのクイズをする。</p> <p>授業の進め方</p> <p>①テキストを配らず、白文で漢詩と作者名を書き、内容を子どもたちと理解し考えて行く。</p> <p>②私の体験や活動を話す。</p> <p>③テキストを配り練習するが、黒板に譜を付け加えて書き、メロディーや音程など譜面の見方をヒントを出しながら説明し、練習する。コンダクターを使い和のメロディーに慣れやすくする。</p>	<p>(ア)①② (イ)①② (ウ)①②</p>
<p>3. 飛鳥・奈良時代の歌に親しみ表現してみよう。(2時間)</p> <p>・万葉クイズ</p> <p>・万葉歌について</p> <p>・国風文化について</p>	<p>前回に続き、万葉仮名クイズをしてから、日本語にはもともと文字が無く、『万葉集』をはじめとする古代の文献は、中国語の文字である漢字で書かれていた。万葉歌は声の文化としてもともと有った歌が、途中で文字にする時に外国語の文字を借り、結果的に万葉集となった。つまり初めは歌う文化で、後で文字でも表されるようになったことを話す。・この時に社会科の歴史学習として</p>	<p>(ア)①② (イ)①② (ウ)①②</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌パズル</li> <li>・「子らを思う歌」の内容や作者、時代背景について考える。</li> <li>・現在の表現法の1つとしてテキストを使い歌う練習をする。</li> <li>・最後にクラスでミニ発表する。</li> <li>・発表後に感想を書いて、意見交換して振り返る。</li> <li>・万葉歌の発表についての補足</li> </ul> <p>4. 万葉文化館 に行く(1日:6時間)</p>	<p>平安時代の国風文化について触れて、大河ドラマの紫式部についても紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NHK for school で国風文化についての動画があるので、それらも活用する。</li> <li>・歌とパズルを合わせる。</li> </ul> <p>「なぜ山上憶良は子どもや生活の様子を歌にしたのか」を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストを使い詩吟の練習法で短時間で和歌で歌うことを体験する。</li> <li>・グループで発表し、最後全員で歌う。</li> <li>・振り返りシートに感想を書く。</li> </ul> <p>・授業の最後に、発表会での万葉歌の表現の1つの選択肢として絵で表現を提案しているが、選択が難しい生徒向けに、「子らを思う歌」以外にイメージが湧きやすい歌も少し挙げておく。意味も簡単に説明し、2つの歌のパズルもする。</p> <p>①柿本人麻呂 卷11-2453 春楊葛山発雲立座妹念 春柳葛城山に立つ雲の立ちても居ても妹をしそ思ふ</p> <p>②春苑紅糸保布桃花下照道糸出立嬌嬌 春の苑紅にはふ桃の花下照る道に出て立つ少女</p> <p>午前中に資料館見学と万葉文化館の先生からのお話を聞く。自分が選んだ歌についての質問や、資料の調べ方や参考本について等質問があれば聞く。昼食後は館内図書館で発表に向けて調べ学習。万葉文化館の図書館には、当時の人々の衣装についての本や、</p>	
---	---	--

	万葉歌を聞く(当時を完璧に再現は難しいが)こともできる。	
5. 自分たちの地域に伝わる文化を知り発信しよう。(3時間)	自分たちの地域に伝わる大切に受け継がれてきたもので、これからも残して行きたいものにはどんなものが有るのだろうかと考えさせ、話し合い、調べて班ごとに5分の発表として、万葉和歌との合同発表までつなげて行けるようにする。この時に、具体的なイメージを持てるように、教師が例を出して子どもたちに話す。例えば、奈良の「お雑煮」に衝撃を受けた事や、私が授業で墨づくり見学に行かせていただいた古梅園の昔からの伝統をそのまま守る話も取り上げたい。学校ホームページでの発信も考える。 *選んだものを更に深く調べる活動の方法として ・フィールドワークで文化に触れる ・体験活動をする機会を作る ・インタビューによる聞き取りをする。	(ウ)①
6. 発表会 地域の人にも来てもらう (3時間)	はじめと終わりの挨拶をする係は要るが、後は自分で名前を言って持ち時間5分で万葉歌についてコメントも付け加えて発表。全員の万葉歌発表終了後、班ごとに持ち時間5分で、自分たちの地域に伝わる大切に受け継がれてきたもので、これからも残して行きたいものについて発表する。	(イ)② (ウ)①②
7. 発表後に感想を書いて、意見交換して振り返る。(1時間)		
8. 学校のホームページや学校だよりで、発表について発信	発表会と発表についての子どもたちの取り組みを掲載する。	

資料

①-1 (表意文字例用) 番号巻 10-1844 「寒」「暖」の読み方を当てる。( )を空白にしたクイズをする。

寒過暖来良思朝鳥指滓鹿能山尔霞軽引

(冬)過ぎて(春)来るらし朝日さす春日の山に霞たなびく

(ふゆ)すぎて(はる)きたるらしあさひさすかすがのやまにかすみたなびく

現代語訳 冬がおわって春が来たらしい。朝日のさす春日山に霞がたなびくことよ。

①-2 (表意文字例用) 番号巻 10-1884 (同じ例として紹介)

歎舊

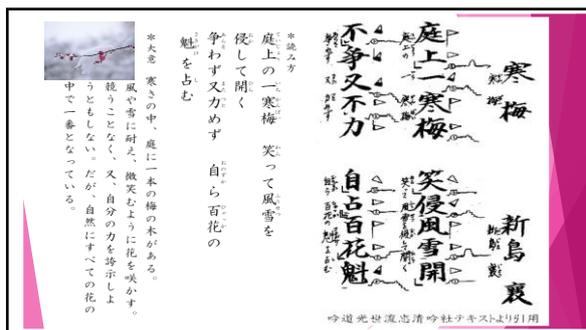
寒過暖来者年月者雖新有人者舊去

冬過ぎて春の来れば年月は新たなれども人は古り行く

ふゆすぎてはるのきたればとしつきはあらたなれどもひとはふりゆく

現代語訳 冬がすぎて春が来ると、年月は新しくなるけれども、人間は古くなっていくよ。

②詩吟用テキスト



③「子らを思う歌」導入時に万葉仮名をパズルで合わすことを考えた。(表音文字)

瓜食めば 子ども思ほゆ 栗食めば まして俣はゆ いくより 来りしものそ

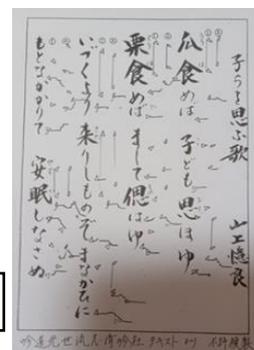
まなかひに もとなかかりて 安眠しなさぬ

(歌の順に並べ変える)

宇利波米婆 伊豆久欲利 麻斯提斯農波由

胡藤母意母保由 久利波米婆 枳多利斯物能曾

麻奈迦比余



③テキスト

夜周伊斯奈佐農

母等奈可と利提

うりはめば こどもおもほゆ くりはめば ましてしのはゆ いづくより きたりしものそ まなかひに  
もとなかかりて やすいしなさぬ

### 山上憶良の万葉歌「子らを思う歌」についての解説用

山上臣憶良

概要 山於憶良とも記す。大宝 1(701) | 遣唐少録無位。和銅 7(714) | 正六位上より従五位下。靈龜 2(716)4 伯耆守。養老 5(721) | 退朝の後東宮に侍す(続日本紀)。神龜 3(726)頃筑前国司、天平 4(732)末頃帰京、天平 5 年に没したか。歳 74(万葉集)。憶良渡来人説があり、天智朝亡命渡来人侍医憶仁の子と言う(中西進)。憶良編集の『類聚歌林』の存在したことが知られる。

番号 巻 5-802

漢字本文(題詞) 思子等歌一首〔并序〕

漢字本文(序文など) 釋迦如来、金口正説、等思衆生、如羅睺羅。又説、愛無過子。

至極大聖、尚有愛子之心。況乎世間蒼生、誰不愛子乎。

漢字本文 宇利波米婆胡藤母意母保由久利波米婆麻斯提斯農波由伊豆久欲利积多利  
斯物能曾麻奈迦比尔母等奈可と利提夜周伊斯奈佐農

読み下し文(題詞) 子らを思へる歌一首〔并せて序〕

読み下し文(序文など) 釈迦如来の、金口に正に説きたまはく「等しく衆生を思ふことは、羅睺羅の如し」と。又説きたまはく「愛しびは子に過ぎたるはなし」と。

至極の大聖すら、尚ほ子を愛ぶる心ます。況むや世間の蒼生の、誰かは子を愛びざらめや。

読み下し文 瓜食めば子ども思ほゆ栗食めばまして偲はゆいづくより来りしものそまなかひ  
にもとなかかりて安眠しなさぬ

訓み うりはめばこどもおもほゆくりはめばましてしのはゆいづくよりきたりしものそまなかひにも  
となかかりてやすいしなさぬ

現代語訳 瓜をたべると子どものことが思われる。栗をたべるとましてしのばれてならない。  
一体、子どもというものはどういう因縁によって来たものだろう。目の先にちらついては、私を安眠  
させない。

歌体 長歌

時代区分 第3期

部立 雑歌

季節 秋

補足 山上憶良/やまのうへのおくら/山上憶良

詠み込まれた地名 不明 / 不明

④—1 万葉歌選択肢用:絵画向けに紹介時に使う(パズルも)

番号 巻11-2453

春柳	葛城山に	立つ雲の	立ちても居ても	妹をしそ思ふ
葛山	発雲	妹念	春楊	立座 (並べ変える)

漢字本文 春楊葛山発雲立座妹念

読み下し文 春柳葛城山に立つ雲の立ちても居ても妹をしそ思ふ

訓み はるやなぎかづらきやまにたつくものたちでもゐてもいもをし

現代語訳

春の楊を獲(かづら)にする葛城山に湧き立つ雲のように、立っても坐っても妻をこそ思うよ。

【故地名】葛城

【現在地名】金剛山(一一二五メートル)を主峰とする葛城連山の総称。

④-2 万葉歌選択肢用:絵画向けに紹介時に使う(パズルも)

番号 巻19-4139

春の苑	紅にほふ	桃の花	下照る道に	出で立つ少女
出立嬬孀	春苑	下照道余	桃花	紅余保布 (並べ変える)

漢字本文 春苑紅余保布桃花下照道余出立嬬孀

読み下し文 春の苑紅にほふ桃の花下照る道に出で立つ少女

訓み はるのそのくれなるにほふもものはなしたでるみちにいでたつをとめ

現代語訳 春の苑に紅が照り映える。桃の花の下の輝く道に、現れ立つ乙女。

歌人 大伴宿禰家持 / おほとものすくねやかもち

詠み込まれた地名 越中 / 富山

【参考文献】 奈良県立万葉文化館 万葉百科 <https://manyo-hyakka.pref.nara.jp/>  
井上さやか 『マンガで楽しむ古典 万葉集』(ナツメ社、2016年)  
②、③吟道光世流志清吟社のテキストより引用

NHK for School 社会 小学6年 歴史にドキリ 紫式部・清少納言～国風文化の誕生  
[https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das\\_id=D0005120260\\_00000](https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005120260_00000)

NHK for School 社会 中学・高校 10min.ボックス 日本史  
摂関政治と国風の文化～平安時代～  
[https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das\\_id=D0005120304\\_00000](https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005120304_00000)